

ゆずき女子編

フランケンシュタインの怪物

原作 メアリー・シェリー
文／絵 ゆずきよ



俺は、
科学者であり、父である、創造者
ヴィクター・フランケンシュタインに
名も付けてもらえぬまま

捨てられた。



私は、
要徳ブリーダーの元
小さなオりに、オス猫と一緒に入れられ
何度も子供を産まされたあげく



山に捨てられた。



僕は、
血統証付きのチワワとして
新しい家族に迎えられたけど
なぜか体が大きく育ってしまい

生後たった7ヶ月で
保健所に捨てられた。



出来上がった俺は
フランケンシュタインが
思い描いていた理想とはかけ離れた
失敗作

醜い怪物だったから





私の毛色は人気がなくなったから
もう私は「必要ない」んだって

体の大きな僕は
「チワワじゃない」って・・・

高いお金で買ったのに
ペットショップに騙されたって

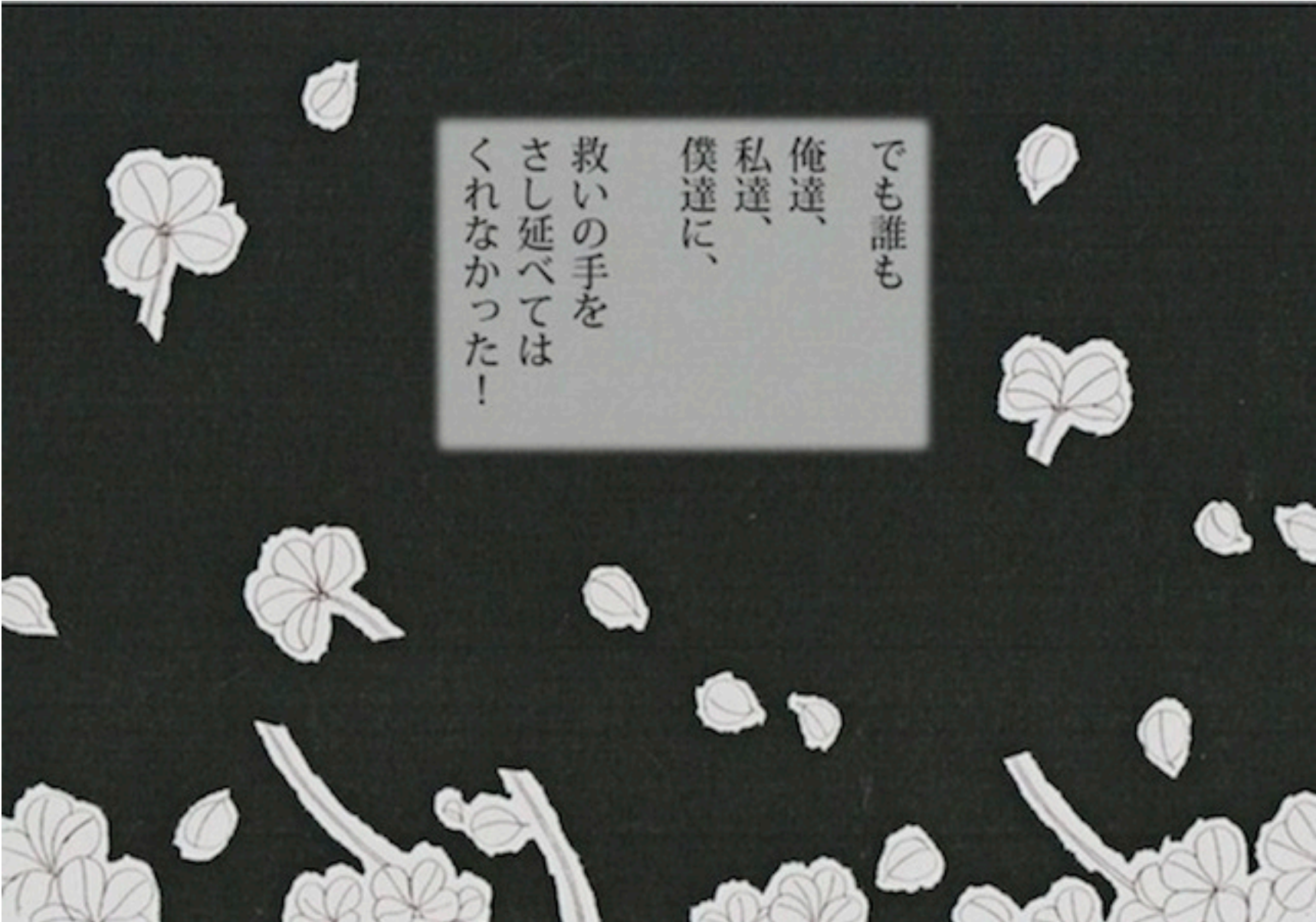


俺は、
醜い容姿に負けない
高い知識と教養を
独学で身につけた！

私は、
家に帰るため
力ないポロポロの体で
必死に山を下りた！

どうする事も出来ない僕は、
ただひたすら
家族が迎えに来てくれるのを
祈り、待った！





でも誰も

俺達、

私達、

僕達に、

救いの手を

さし延べては

くれなかった！



憎い!!

人間なんて 2度と信じない!


俺達が、何をした?

私達は、何も悪い事などしてはいない!

なのに僕達は、
ゴミのように捨てられた!

僕は、
保健所の人間に

キバをむき出し
何度も咬みついてやった



私は、
私を傷付ける目的で捕まえようと

近寄ってくる人間達を
次々と鋭い爪で切り裂いた

俺は、
フランケンシュタインへの
復讐の鬼となり

人間共が想像していた通りの
「醜い怪物」になってやった！



そして僕は、
期限がきて殺処分され

私は、
飢えたまま のたれ死に・・・

俺は、
絶望と孤独を胸に抱いて
人間のいない氷の世界へ
消えた・・・



俺達は、

ただ

人並の愛情と

平凡な毎日が

欲しかった

だけなのに・・・

(いつの間にか

怪物にされてしまった)

本当の怪物は
フランケンシュタイン・・・

イヤ、
人間のほうなのに。

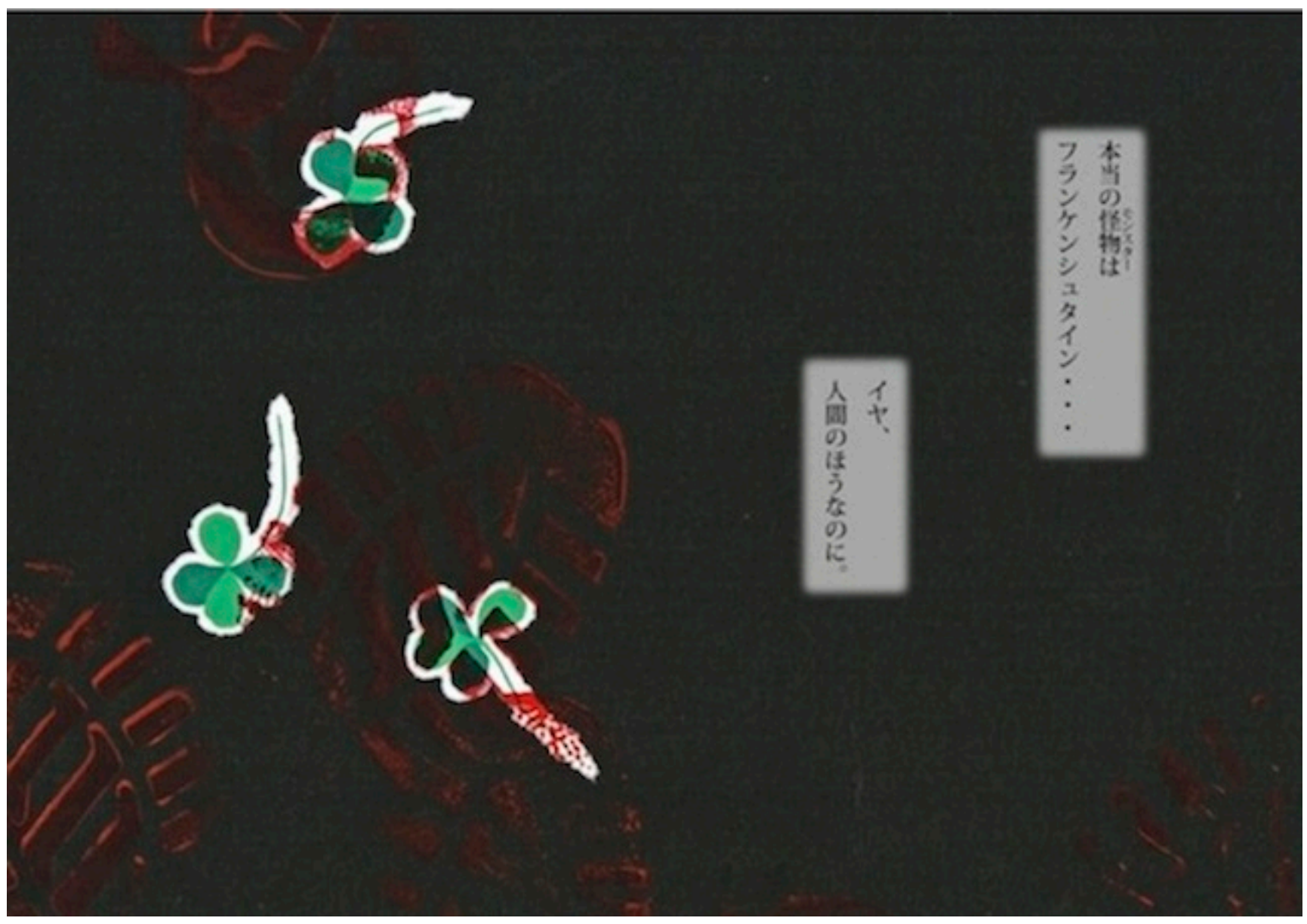




Figure 1